

ZHONGGUO CHANGYONG ZHONGCAOYAO

中国常用中草药

主 编 沈保安

副主编 薛建海 刘荣禄 肖统海 毕焕新

周锡龙 于凤琴 马友国



安徽科学技术出版社

中国常用中草药

主 编 沈保安

副 主 编 薛建海 刘荣禄 肖统海 毕焕新
周锡龙 于凤琴 马友国

编 著 者 沈保安 刘道荣 朱龙福 薛建海
刘荣禄 肖统海 毕焕新 周锡龙
于凤琴 马友国 黄秀兰 梅全喜
庞来祥 李大喜 刘兰桂 姚继华
陈世平 王长春 张成元 柴瑞霁
董华贵 洪双贵 杜胜利 郑庆丽

助 编 邱声祥 张红武 徐化文 鲜大经

主要绘图 刘 波 张德庆 朱龙福 陈邦树

彩色摄影 沈保安 郝汉臣 刘荣禄

安 徽 科 学 技 术 出 版 社

(皖)新登字02号

责任编辑：范源

封面设计：胡东成

中国常用中草药

沈保安 主编

安徽科学技术出版社出版

(合肥市九州大厦八楼)

邮政编码：230063

新华书店经销 芜湖市新华印刷厂印刷

开本：787×1092 1/16 印张：24.25 字数：850 000

1992年8月第1版 1992年8月第1次印刷

印数：10 000

ISBN 7-5337-0781-8/R·144 定价：15.00元

前 言

中草药，是中华民族的传统药物。几千年来，它为中国乃至世界人民防病治病做出了卓越贡献。

我国幅员辽阔，地形复杂，气候条件多种多样，中草药资源十分丰富。据初步统计，目前有文献记载的中草药已达8 000多种。其中在临床上常用的中草药有400多种。

为了弘扬中华民族文化，进一步发掘和整理祖国医药学宝贵遗产，总结和推广近年来中草药研究新成果，普及常用中草药知识，我们编著了这部《中国常用中草药》。

本书书首对中草药的概念、命名、性能和应用进行了详细阐述。书中正文收载中国传统中药和草药138种，加上附注中记载的中草药，共计500余种。书中对每种药物均按药物名实、植物（动物）形态、生境分布、采集加工、药材性状、商品规格、饮片炮制、性味归经、功能主治、用法用量、使用注意、方剂精选及附注等项作了全面而系统的记述，并重点介绍了中医药传统经验术语、谚语和歌诀。其中药物名实项，集中草药来源、药名考释于一体。书中的药用植物学名，除参考采用《中国药典》1990年版所载的学名外，并采用了本书作者在《中药通报》1987年第4期和第11期上发表的“《中华人民共和国药典》1985年版一部一些植物学名的修订”一文中的资料。根据《国际植物命名法规》（以下简称《法规》）规定，任何一种（或亚种、变种和变型）植物，都只能保有一个正确的学名，即符合《法规》的学名。凡是不符合《法规》的学名，统称为异名。为避免异名混乱而影响中药鉴定和研究，本书对《中国药典》1990年版收载的40多种中草药原植物拉丁学名作了修订。同时，书中还汇集了本书作者近年来对细辛、牡丹皮、预知子、威灵仙、吴茱萸、络石藤、石斛与霍山石斛等传统中药的本草考证和中药鉴定研究新成果。

书中还附有451幅原植物（或动物、矿物）形态和药材形状墨线图，以便读者对照图文，识别药物。

我们衷心希望这部《中国常用中草药》能够成为广大中药工作者、临床中医和业余中草药爱好者喜爱的工具书，也希望它能够在广大人民群众中普及和传播中草药知识，为人类健康事业做出贡献。

在本书编著过程中，我们曾得到邓来送、苏宋旺、杨建国、陈代贤、刘合刚、周绍宙、周成明等同志的支持和帮助，并承蒙《植物分类学报》主编洪德元教授合作为药用牡丹命名，在此一并致谢。

由于我们水平和资料有限，书中疏漏和错误之处，恐难避免。殷切希望广大读者提出宝贵意见，以便今后再版时得以修正。

沈保安

1991年10月

编写说明

《中国常用中草药》是一部集中草药知识之精华的工具书。本书正文共收载中国传统中药和草药438种。其中植物类药377种，动物类药42种，矿物类药19种，加上附注中记载的中草药，共计500余种。植物类药以科为单位，按植物分类系统次序编排；动物类药按动物分类系统次序进行编排；矿物类药按其所含主要成分归类编排。

书首载有中草药基本知识，详细阐述中草药的概念、命名、性能和应用。

书中的每一种药首先以其通用中文药名为正名，然后按下列项目进行编写。

药物名实 记述该药来源，并对大部分药名作了简要考释。植物（动物）类药来源包括其所在科名、植物（动物）名、拉丁学名与药用部位。矿物类药来源包括其所在矿物类名或族名、矿石名或岩石名与主要成分。书中对符合《国际植物命名法规》规定的正确拉丁学名一律用正体排印，对异名则用斜体排印。同一药物有数个来源者，正文一般只记述该药第一来源，其余来源均简要收录于附注中。同种植物（动物）往往有数个功效不同的药用部位，本书给每个功效不同的药用部位确定了一个正名，以免同名异药、同药异名的混乱现象发生。

植物（动物）形态 描述其原植物（动物）形态特征。种子植物兼述其花、果期。

生境分布 记述该药的生长环境与分布地区。除进口药材外，一般药材只记述其在我国境内的分布地区。

采集加工 记述该药的采集季节和产地加工方法。其中干燥方法，凡采用烘干、晒干或阴干三种方法均可者，则以干燥表示，其余均指明具体干燥方法。

药材性状 描述该药材外部与断面的形态、颜色、质地及气味等方面的特征，并重点介绍传统的经验鉴别方法。

商品规格 记述该药材的商品规格及各等级药材的区别特征。此项主要参考依据为国家医药管理局和卫生部1984年制订的《七十六种药材商品规格标准》。

饮片炮制 记述该药材炮制成药片的净制、切制和炮制方法。

性味归经 记叙该药的性味与归经。一般先写味，后写性，再写归经。如该药有毒，则按其毒性大小，分别写明有大毒、有毒或有小毒。

功能主治 记述该药的主要功能和主治病症。

用法用量 用法包括内服和外用。用量除特加说明外，均指成人一日常用剂量（干品）。应用时须灵活掌握，对毒性药物用量尤须慎重。

使用注意 记述该药在临床应用的注意事项。包括病症禁忌、配伍禁忌、妊娠禁忌和服药时的饮食禁忌等。同时也包括用法注意事项，如宜先煎、后下、包煎、烊化等。

方剂精选 凡是该药单味主治病症或在复方中作为主药的主治病症，均尽量选载有关方剂。

附注 主要注明与该药功效相同或相似而来源不同的药物，该药的其它药用部位，该药的品种混乱情况，重要本草考证资料，以及以上各项未包括的内容。

书中附有451幅原植物（或动物、矿物）形态和药材形状墨线图，以便读者参照识别中草药。

书末附录部分包括饮片炮制通则、公制与市制计量单位的换算。书末还附有药物中文正名索引和拉丁学名索引。

为方便广大群众阅读，本书中的计量单位一律采用法定计量单位（中文书写），如公斤、克、毫升、米、厘米、毫米等。

目 录

一、中草药的概念.....	1
二、中草药的命名.....	1
三、中草药的性能.....	3
四、中草药的应用.....	5

一、植物类药

(一) 海带科	
1. 昆布.....	8
(二) 马尾藻科	
2. 海藻.....	8
(三) 麦角菌科	
3. 冬虫夏草.....	9
(四) 多孔菌科	
4. 茯苓.....	10
5. 猪苓.....	11
6. 雷丸.....	11
(五) 灰包科	
7. 马勃.....	12
(六) 石松科	
8. 伸筋草.....	13
(七) 卷柏科	
9. 卷柏.....	13
(八) 木贼科	
10. 木贼.....	14
(九) 海金沙科	
11. 海金沙.....	15
(十) 蚌壳蕨科	
12. 狗脊.....	16
(十一) 水龙骨科	
13. 骨碎补.....	16
14. 石韦.....	18
(十二) 银杏科	
15. 白果.....	18
(十三) 松科	
16. 松花粉.....	19
17. 土荆皮.....	20

(十四) 柏科

18. 侧柏叶.....	21
19. 柏子仁.....	22

(十五) 红豆杉科

20. 榧子.....	22
-------------	----

(十六) 麻黄科

21. 麻黄.....	23
22. 麻黄根.....	24

(十七) 三白草科

23. 鱼腥草.....	24
24. 三白草.....	25

(十八) 胡椒科

25. 胡椒.....	26
26. 荜茇.....	26
27. 海风藤.....	27

(十九) 胡桃科

28. 核桃仁.....	28
--------------	----

(二十) 桑科

29. 楮实子.....	28
30. 火麻仁.....	29
31. 桑叶.....	30
32. 桑枝.....	30
33. 桑白皮.....	31
34. 桑椹.....	31

(二十一) 檀香科

35. 檀香.....	31
-------------	----

(二十二) 桑寄生科

36. 桑寄生.....	32
37. 槲寄生.....	33

(二十三) 马兜铃科

38. 马兜铃.....	34
附: 天仙藤.....	35

39. 青木香.....	35
--------------	----

40. 细辛.....	36
-------------	----

附: 细辛草.....	37
-------------	----

东北细辛.....	37
-----------	----

41. 关木通.....	37
--------------	----

附: 川木通.....	38
-------------	----

(二十四) 蓼科

42. 篇蓄.....	38
-------------	----

43. 拳参	39
44. 虎杖	39
45. 何首乌	40
46. 首乌藤	41
47. 水红花子	42
48. 大黄	42
(二十五) 藜科	
49. 地肤子	44
(二十六) 苋科	
50. 牛膝	44
51. 川牛膝	45
52. 青葙子	46
53. 鸡冠花	47
(二十七) 商陆科	
54. 商陆	48
(二十八) 马齿苋科	
55. 马齿苋	48
(二十九) 石竹科	
56. 瞿麦	49
57. 太子参	50
58. 银柴胡	51
59. 王不留行	51
(三十) 睡莲科	
60. 芡实	52
61. 莲子	53
62. 莲子心	54
63. 莲须	54
64. 莲房	54
65. 荷叶	55
66. 藕节	55
(三十一) 毛茛科	
67. 川乌	55
68. 附子	56
69. 草乌	57
70. 升麻	58
71. 威灵仙	59
72. 黄连	60
73. 白芍	62
74. 赤芍	63
75. 牡丹皮	63
76. 白头翁	66
77. 猫爪草	67
78. 天葵子	67
(三十二) 木通科	
79. 木通	68
80. 八月炸	69
附: 预知子	70
81. 大血藤	70

(三十三) 小檗科	
82. 淫羊藿	71
83. 功劳木	72
(三十四) 防己科	
84. 青风藤	72
85. 防己	73
附: 广防己	74
86. 金果榄	74
(三十五) 木兰科	
87. 八角茴香	75
88. 辛夷	75
89. 厚朴	76
90. 厚朴花	78
91. 五味子	78
(三十六) 肉豆蔻科	
92. 肉豆蔻	79
(三十七) 樟科	
93. 肉桂	80
94. 桂枝	81
95. 乌药	81
96. 澄茄子	82
附: 华澄茄	83
(三十八) 罂粟科	
97. 延胡索	83
98. 夏天无	84
99. 罂粟壳	84
(三十九) 十字花科	
100. 白芥子	85
附: 黄芥子	86
101. 大青叶	86
附: 蓼大青叶	87
102. 板蓝根	87
103. 葶苈子	87
104. 莱菔子	88
(四十) 景天科	
105. 垂盆草	89
(四十一) 虎耳草科	
106. 常山	89
(四十二) 金缕梅科	
107. 路路通	90
附: 枫香脂	91
(四十三) 杜仲科	
108. 杜仲	91
(四十四) 蔷薇科	
109. 仙鹤草	92
110. 木瓜	93
附: 光皮木瓜	94
111. 山楂	94

112. 枇杷叶	95	154. 陈皮	127
113. 委陵菜	95	155. 青皮	128
114. 蕤仁	96	156. 橘红	128
115. 苦杏仁	97	157. 橘核	129
116. 桃仁	98	158. 化橘红	129
117. 郁李仁	99	159. 佛手	130
118. 乌梅	100	160. 白鲜皮	131
119. 梅花	101	161. 吴茱萸	131
120. 月季花	101	162. 黄柏	132
121. 玫瑰花	101	163. 花椒	133
122. 金樱子	102	(四十九) 苦木科	
123. 覆盆子	103	164. 苦木	134
124. 地榆	104	165. 椿皮	135
(四十五) 豆科		166. 鸦胆子	136
125. 儿茶	104	(五十) 橄榄科	
126. 合欢皮	105	167. 青果	137
127. 合欢花	106	(五十一) 楝科	
128. 苏木	106	168. 苦楝皮	137
129. 番泻叶	107	169. 川楝子	138
130. 决明子	108	(五十二) 远志科	
131. 猪牙皂	108	170. 远志	139
132. 皂角刺	109	(五十三) 大戟科	
133. 降香	110	171. 巴豆	140
134. 黄芪	110	172. 地锦草	141
附: 红芪	111	173. 千金子	142
135. 沙苑子	111	174. 大戟	142
136. 刀豆	112	附: 红大戟	143
137. 白扁豆	113	175. 甘遂	144
138. 淡豆豉	114	176. 蓖麻子	144
139. 甘草	114	(五十四) 漆树科	
140. 赤小豆	116	177. 五倍子	145
141. 补骨脂	117	178. 干漆	146
142. 葛根	118	(五十五) 冬青科	
143. 苦参	119	179. 枸骨叶	146
144. 槐角	119	(五十六) 七叶树科	
145. 槐花	120	180. 娑罗子	147
146. 山豆根	120	(五十七) 无患子科	
附: 北豆根	121	181. 龙眼肉	148
147. 鸡血藤	121	182. 荔枝核	149
148. 胡芦巴	122	(五十八) 凤仙花科	
(四十六) 牻牛儿苗科		183. 急性子	150
149. 老鹳草	123	(五十九) 鼠李科	
(四十七) 蒺藜科		184. 大枣	150
150. 蒺藜	124	185. 酸枣仁	151
(四十八) 芸香科		(六十) 葡萄科	
151. 枳实	125	186. 白藜	152
152. 枳壳	126	(六十一) 锦葵科	
153. 香椿	126	187. 苘麻子	152

附：冬葵子·····	153
(六十二) 梧桐科	
188. 胖大海·····	153
(六十三) 柽柳科	
189. 西河柳·····	154
(六十四) 堇菜科	
190. 紫花地丁·····	155
(六十五) 瑞香科	
191. 沉香·····	155
附：进口沉香·····	156
192. 芫花·····	156
(六十六) 石榴科	
193. 石榴皮·····	157
(六十七) 使君子科	
194. 使君子·····	158
195. 诃子·····	158
(六十八) 桃金娘科	
196. 丁香·····	159
(六十九) 锁阳科	
197. 锁阳·····	160
(七十) 五加科	
198. 五加皮·····	161
附：刺五加·····	162
香加皮·····	162
199. 人参·····	162
200. 三七·····	166
201. 通草·····	168
附：小通草·····	169
(七十一) 伞形科	
202. 独活·····	169
203. 当归·····	169
204. 白芷·····	171
205. 柴胡·····	172
附：春柴胡·····	173
206. 积雪草·····	173
207. 明党参·····	174
208. 蛇床子·····	174
209. 阿魏·····	175
210. 小茴香·····	176
211. 北沙参·····	177
212. 藁本·····	178
213. 川芎·····	178
214. 羌活·····	179
215. 前胡·····	180
216. 防风·····	181
(七十二) 山茱萸科	
217. 山茱萸·····	182
(七十三) 鹿蹄草科	

218. 鹿衔草·····	183
(七十四) 杜鹃花科	
219. 满山红·····	184
220. 闹羊花·····	184
(七十五) 报春花科	
221. 金钱草·····	185
附：广金钱草·····	186
连钱草·····	186
(七十六) 柿树科	
222. 柿蒂·····	186
(七十七) 安息香科	
223. 安息香·····	187
(七十八) 木犀科	
224. 连翘·····	187
225. 秦皮·····	188
226. 女贞子·····	189
(七十九) 马钱科	
227. 密蒙花·····	190
228. 马钱子·····	191
(八十) 龙胆科	
229. 秦艽·····	192
230. 龙胆·····	193
(八十一) 夹竹桃科	
231. 络石藤·····	194
232. 罗布麻叶·····	194
(八十二) 萝藦科	
233. 白薇·····	195
234. 白前·····	196
235. 徐长卿·····	197
(八十三) 旋花科	
236. 菟丝子·····	197
237. 牵牛子·····	198
(八十四) 紫草科	
238. 紫草·····	199
(八十五) 马鞭草科	
239. 马鞭草·····	200
240. 蔓荆子·····	201
(八十六) 唇形科	
241. 断血流·····	202
242. 香薷·····	202
243. 益母草·····	203
244. 茺蔚子·····	204
245. 泽兰·····	204
246. 薄荷·····	205
247. 紫苏叶·····	206
248. 紫苏子·····	207
249. 紫苏梗·····	207
250. 广藿香·····	207

附：土藿香·····	208
251. 夏枯草·····	208
252. 丹参·····	209
253. 荆芥·····	210
254. 黄芩·····	211
255. 半枝莲·····	212
(八十七) 茄科	
256. 洋金花·····	213
257. 天仙子·····	214
258. 地骨皮·····	214
259. 枸杞子·····	215
260. 锦灯笼·····	216
(八十八) 玄参科	
261. 胡黄连·····	217
262. 地黄·····	218
263. 玄参·····	219
(八十九) 紫葳科	
264. 凌霄花·····	220
265. 木蝴蝶·····	221
(九十) 胡麻科	
266. 黑芝麻·····	221
附：亚麻子·····	222
(九十一) 列当科	
267. 肉苁蓉·····	222
(九十二) 爵床科	
268. 穿心莲·····	223
269. 青黛·····	224
(九十三) 车前科	
270. 车前草·····	225
271. 车前子·····	226
(九十四) 茜草科	
272. 梔子·····	226
273. 巴戟天·····	227
274. 茜草·····	228
275. 钩藤·····	228
(九十五) 忍冬科	
276. 金银花·····	229
277. 忍冬藤·····	231
(九十六) 败酱科	
278. 甘松·····	231
(九十七) 川续断科	
279. 续断·····	232
(九十八) 葫芦科	
280. 土贝母·····	233
281. 罗汉果·····	233
282. 木鳖子·····	234
283. 丝瓜络·····	235
284. 冬瓜皮·····	236

285. 瓜蒌·····	233
286. 瓜蒌子·····	237
287. 瓜蒌皮·····	238
288. 天花粉·····	238
(九十九) 桔梗科	
289. 南沙参·····	239
290. 党参·····	239
291. 半边莲·····	241
292. 桔梗·····	241
(一〇〇) 菊科	
293. 牛蒡子·····	242
294. 青蒿·····	244
295. 艾叶·····	244
296. 茵陈·····	245
297. 冰片·····	246
附：机制冰片·····	247
298. 紫菀·····	247
299. 苍术·····	247
300. 白术·····	248
301. 鹤虱·····	249
附：南鹤虱·····	250
302. 红花·····	250
303. 鹅不食草·····	251
304. 野菊花·····	252
305. 菊花·····	252
306. 大蓟·····	254
307. 小蓟·····	254
308. 木香·····	255
附：川木香·····	256
309. 墨旱莲·····	256
附：红旱莲·····	257
310. 佩兰·····	257
311. 旋覆花·····	258
312. 金沸草·····	259
313. 漏芦·····	259
314. 豨莶草·····	260
315. 蒲公英·····	261
316. 款冬花·····	262
317. 苍耳子·····	263
(一〇一) 香蒲科	
318. 蒲黄·····	263
(一〇二) 黑三棱科	
319. 三棱·····	264
(一〇三) 泽泻科	
320. 泽泻·····	265
(一〇四) 禾本科	
321. 薏苡仁·····	266
322. 麦芽·····	267

323. 白茅根.....	267
324. 淡竹叶.....	268
325. 谷芽.....	269
附: 麦芽.....	269
326. 芦根.....	269
327. 竹茹.....	270
328. 天竺黄.....	271
(一〇五) 莎草科	
329. 香附.....	272
(一〇六) 棕榈科	
330. 槟榔.....	273
331. 大腹皮.....	274
332. 棕榈.....	274
(一〇七) 天南星科	
333. 石菖蒲.....	275
334. 千年健.....	275
335. 天南星.....	276
附: 胆南星.....	277
336. 半夏.....	277
337. 白附子.....	278
(一〇八) 浮萍科	
338. 浮萍.....	279
(一〇九) 谷精草科	
339. 谷精草.....	280
(一一〇) 鸭跖草科	
340. 鸭跖草.....	281
(一一一) 灯心草科	
341. 灯心草.....	281
(一一二) 百部科	
342. 百部.....	282
(一一三) 百合科	
343. 薤白.....	283
344. 韭菜子.....	284
345. 芦荟.....	284
346. 知母.....	285
347. 天冬.....	286
348. 川贝母.....	287
附: 伊贝母.....	288
平贝母.....	288
349. 浙贝母.....	289
350. 百合.....	290
351. 麦冬.....	291
352. 重楼.....	292
353. 黄精.....	293
354. 玉竹.....	294
355. 土茯苓.....	294
(一一四) 石蒜科	
356. 仙茅.....	295

(一一五) 薯蓣科	
357. 薯蓣.....	296
附: 绵薯蓣.....	297
358. 山药.....	297
(一一六) 鸢尾科	
359. 射干.....	298
360. 西红花.....	299
(一一七) 姜科	
361. 红豆蔻.....	299
362. 高良姜.....	300
363. 草豆蔻.....	301
364. 益智.....	302
365. 白豆蔻.....	303
366. 草果.....	304
367. 砂仁.....	304
368. 姜黄.....	305
附: 片姜黄.....	306
369. 郁金.....	306
370. 莪术.....	307
371. 山柰.....	308
372. 生姜.....	308
373. 干姜.....	309
(一一八) 兰科	
374. 白及.....	309
375. 石斛.....	310
附: 木斛.....	312
376. 天麻.....	312
377. 山慈菇.....	313
附: 光慈菇.....	314
二、动物类药	
378. 地龙.....	314
379. 水蛭.....	315
380. 石决明.....	315
381. 珍珠母.....	316
382. 珍珠.....	317
383. 瓦楞子.....	317
384. 牡蛎.....	318
385. 蛤壳.....	319
386. 海螵蛸.....	320
387. 全蝎.....	321
388. 蜈蚣.....	321
389. 桑螵蛸.....	322
390. 土鳖虫.....	323
391. 九香虫.....	324
392. 蝉蜕.....	325
393. 斑蝥.....	326
394. 僵蚕.....	326

395. 蜂房.....	327
396. 蜂蜜.....	328
397. 海龙.....	329
398. 海马.....	330
399. 蟾酥.....	330
400. 蛤蟆油.....	331
401. 龟甲.....	332
附: 龟甲胶.....	333
402. 鳖甲.....	333
403. 蛤蚧.....	334
404. 乌梢蛇.....	335
405. 蛇蜕.....	336
406. 金钱白花蛇.....	336
407. 蕲蛇.....	337
408. 鸡内金.....	338
409. 穿山甲.....	339
410. 五灵脂.....	339
411. 阿胶.....	340
412. 麝香.....	341
413. 鹿茸.....	342
414. 鹿角.....	344
附: 鹿角胶.....	344
鹿角霜.....	344
415. 牛黄.....	345
416. 水牛角.....	345
417. 羚羊角.....	346
418. 紫河车.....	347
419. 血余炭.....	348
三、矿物类药	
420. 朱砂.....	348
421. 轻粉.....	348

422. 红粉.....	349
423. 自然铜.....	349
424. 赭石.....	350
425. 磁石.....	351
426. 禹余粮.....	351
427. 石膏.....	352
428. 钟乳石.....	352
429. 紫石英.....	353
430. 花蕊石.....	353
431. 白矾.....	354
432. 赤石脂.....	354
433. 硫黄.....	355
434. 雄黄.....	355
435. 炉甘石.....	355
436. 青礞石.....	356
附: 金礞石.....	356
437. 滑石.....	356
附: 软滑石.....	357
438. 芒硝.....	357

附录

一、饮片炮制通则	358
二、公制与市制计量单位的换算	359

药物中文正名索引	360
----------------	-----

拉丁学名索引	366
--------------	-----

一、中草药的概念

中药,是指能够在中医药基本理论指导下应用的中华民族传统药物。广义的中药,包括我国的草药。狭义的中药,一般是指中医临床应用历史较久、流传较广的传统药物,又称传统中药,如人参、当归等。我国的草药,一般是指初具中医药理论的基本内容,在民间确实能够用以防治一些疾病的药物,如夏天无、断血流等。某些草药随着人们对其性能认识的深入和广泛的应用于临床,这些草药往往能逐渐转化为中药。由此可见,中药主要源于草药,草药往往是中药之祖。中草药,则包括我国的传统中药和草药。

据《中国药典》委员会介绍,《中国药典》1990年版共收录509种药材,其中传统中药468种,草药14种,民族药10种,其他药材17种。

中草药,主要来源于植物、动物和矿物,其中多数为植物药。古代有“诸药以草为本”之说,并统称所有中药为“本草”。历代中药著作名称上常带有“本草”二字,如《神农本草经》、《本草纲目》等。因此本草一词,又有引申为中药著作之义。

二、中草药的命名

中草药的名称常有一定的涵义。有很多药名通过读名思义,可以帮助我们掌握一些中草药基本知识。

1. 因形态而得名

如人参的根似人形,故名。牛膝的茎节膨大,似牛的膝关节,故名。鸢尾的叶片形似鸢尾羽,故名。此外,猴头菌、射干、乌头、百合、贝母、天南星、白头翁、银杏、猴枣等,都是因其形态而命名的。

2. 因特性而得名

如向日葵的花盘倾向日光,故名。睡莲的花午后开放,傍晚闭合如睡,故名。此外,急性子、含羞草、落花生、荔枝等,都是因其某种特性而命名的。

3. 因颜色而得名

红色类者在药名上常带有红、赤、丹、朱等字,如红芪、红花、红枣、红参、红大戟、赤芍、赤小豆、赤石脂、丹参、丹皮、朱砂等。紫色类者在药名上常带有紫字,如紫草、紫苏、紫河车、紫荆皮、紫石英等。黄色类者在药名上常带有黄字,如黄连、黄柏、

黄芩、黄芪、黄芩子、大黄、雄黄、硫黄、蒲黄、姜黄、藤黄、牛黄等。白色类者在药名上常带有白字,如白芍、白果、白芷、白及、白豆蔻、白蒺藜、白芥子、白附子、白鲜皮等。黑色类者在药名上常带有黑、乌、玄、皂等字,如黑料豆、黑芝麻、黑胡椒、乌梅、乌梢蛇、玄参、皂角等。青色类者在药名上常带有青字,如青皮、青蒿、青黛、青龙齿、青娘子、大青叶等。此外,赭色的赭石,绛色的绛矾,棕色的棕儿茶,绿色的绿铜,色黄如金的金樱子,色黄似铜的自然铜,色白如银的银耳,色白如玉的玉兰,色蓝似胆的胆矾等,都是因其颜色而命名的。

4. 因气味而得名

(1) 因其药气而得名:香气类者在药名上常带有香字,如香薷、香椿、香菇、木香、藿香、小茴香、沉香、丁香、檀香、麝香等。臭气类的药名上常带有臭字,如臭梧桐、臭牡丹、臭椿等。此外,有鱼腥气的鱼腥草,有鸡尿气的鸡尿藤,有腐败豆酱气的败酱草,有松节油气的甘松等,都是因其药气而命名的。

(2) 因其药味而得名:辛味类者在药名上常带有辛、辣字,如辛夷、细辛、辣蓼等。酸味类者在药名上常带有酸、酢(味酸如酢)字,如酸模、酸橙、酢浆草等。苦味类者在药名上常带有苦字,如苦参、苦丁茶、苦杏仁、苦楝皮等。甘味类者在药名上常带有甘、甜字,如甘草、甘松、甜石莲、甜茶、甜杏仁、甜瓜等。淡味类者在药名上常带有淡字,如淡竹叶、淡竹茹、淡豆豉等。咸味类者在药名上常带有咸字,如咸秋石、咸大芸等。此外,还有味苦如龙胆的龙胆草,刺激味戟人咽喉的大戟,甘、酸、辛、苦、咸味俱全的五味子等,都是因其药味而命名的。

5. 因质地而得名

厚朴的皮厚而质朴,故名。木瓜形似瓜而为木质,故名。石莲子质地坚硬如石,故名。泡桐的茎质地轻泡,故名。此外,还有桔梗、枳实、枳壳、海螵蛸、桑螵蛸、木防己、粉防己等,都是因其质地而命名的。

6. 因鲜陈所宜而得名

宜鲜用者在药名上常带有鲜字,如鲜生地、鲜石斛、鲜芦根等。宜陈用者在药名上常带有陈字,如陈皮、陈仓米、陈棕炭等。

7. 因生长季节而得名

春季的如迎春花迎春开花,故名。夏季的如半夏在农历五月中旬半夏时节生长最旺盛,故名;夏枯草

在夏至以后则花序枯焦，故名；六月雪在农历六月花开如白雪，故名。秋季的如秋海棠在秋季开花，故名；八月炸的果实多在农历八月成熟炸裂，故名。冬季的如款冬花至（款）冬开花，故名；冬青的叶子凌冬犹青，故名；腊梅的花开在寒冬腊月，故名。此外还有冬是虫（动物）、夏为草（寄生菌类植物）的冬虫夏草，四季常青的四季青，花开四季的月季花等，都是因其生长季节而命名。

8. 因生长环境而得名

喜生于土地中的如土鳖虫、地龙，生长在石上的如石韦、石菖蒲、石斛、石耳、络石藤，生长于水中或水边湿地的如水杨梅、水苏、水仙、水菖蒲，生长在田间或田埂上的如田皂角、田基黄，生长在山区的如山茱萸、山慈菇，生长在松林间或松树上的如松萝、松鼠，生长在瓦上的瓦松，生长在朽木上的木耳，生长在墙壁间的壁虎，生长在海中的海藻、海参，生长在水泽边的泽兰，生长在车前道旁的车前草，生长在竹子上的竹黄，寄生在桑树上的桑寄生，等等，都是因其生长环境而命名的。

9. 因药材产地而得名

四川主产或特产的药名上常带有川字，如川乌、川芎、川楝子、川牛膝、川贝母、川续断、川木香；巴豆、蜀椒也主产于四川，⁴古代巴国、蜀国均在今四川省境内，故名。广东、广西主产或特产的药名上常带有广字，如广东的广藿香、广陈皮、广橘红、广佛手，广西的广豆根、广三七、广砂仁，广东和广西均产的广地龙、广寄生、广防己。有的不是广东所产，而是以前从广东进口后销往内地的，如广角、广木香等。东北主产或特产的药名上常带有关（指山海关外）、辽（辽宁）字，如关木通、关防风、关鹿茸、关白附、关苍术、辽细辛、辽人参。浙江主产或特产的药名上常带有浙、杭（杭州）、温（温州）、于（于潜）、金（金华）字，如浙贝母、浙玄参、杭菊花、杭白芍、杭白芷、于白术、温郁金、金香附等。河南主产或特产的药名上常带有怀（古代怀庆府在今河南省境内）、密（密县）字，如怀地黄、怀牛膝、怀山药、怀菊花（统称四大怀药）和密银花。山东主产或特产的药名上常带有东字，如东山楂、东白薇等。江苏主产或特产的药名上常带有苏字，如苏薄荷、苏败酱、茅苍术等。福建主产或特产的药名上常带有建字，如建泽泻、建莲子、建神曲、建君子（使君子）。江西主产或特产的药名上常带有江字，如江枳壳、江香薷等。云南主产或特产的药名上常带有云字，如云茯苓、云黄连、云木香、云当归等。我国南方主产或习用的药名上常带有南字，如南沙参、南山楂、南鹤虱、南五加皮、南柴胡、南葶苈子等。我国北方主产或习用的药名上常带有北字，如北黄芪、北枸杞、北细辛、北豆根、北沙参、北山楂、北五味

子、北五加皮、北柴胡、北鹤虱等。此外，安徽铜陵凤凰山和南陵丫山产的凤丹皮，亳县产的亳白药、亳菊花，滁县产的滁菊花，宣城产的宣木瓜，徽州产的徽白术、徽菊花，霍山产的霍山石斛；山东东阿产的阿胶，莱阳产的莱阳参（北沙参），古信州（今江西上饶）产的信石，古潞州（今山西潞安）产的潞党参，古秦国（今山西、甘肃一带）产的秦艽、秦皮，古吴国（今长江下游一带）产的吴茱萸，古蕲州（今湖北蕲春附近）产的蕲蛇、蕲艾，古安息国（今伊朗境内）产的安息香，古天竺国（今印度）产的天竺黄，古吕宋国（今属菲律宾）产的吕宋子，古高丽国（今朝鲜）产的高丽参，古安南国（今越南）产的安南子（胖大海），西洋诸国（美国、加拿大及法国）产的西洋参，等等，都是因其产地而命名的。

10. 因加工炮制而得名

经过炒法炮制的饮片药名上常带有炒字，如炒白芍、炒白术、炒枳壳等。经过炙法炮制的饮片药名上常带有炙字，如炙甘草、炙黄芪、炙冬花、炙紫菀、炙百部等。经过炮法（砂烫）炮制的饮片药名上常带有炮字，如炮姜、炮山甲。经过煅制的饮片药名上常带有煅字，如煅磁石、煅赭石、煅龙骨、煅牡蛎等。经过炒焦法炮制的饮片药名上常带有焦字，如焦山楂、焦麦芽、焦栀子、焦神曲等。经过炒炭或煅炭的饮片药名上常带有炭字，如地榆炭、茜草炭、侧柏炭、蒲黄炭、藕节炭、血余炭等。经过水飞加工的药名上常带有飞字，如飞朱砂、飞滑石等。经过发芽加工的药名上常带有芽字，如麦芽、谷芽、粟芽等。经过较复杂的制法加工的药名上常带有制字，如制川乌、制草乌、制半夏、制天南星等。此外，经过朱砂拌制的朱茯神、朱灯心，经过蒸熟加工的熟地黄，等等，都是因其炮制加工而命名的。

11. 因药用部位而得名

根及根茎类药材的药名上常带有根字，如板蓝根、山豆根、葛根、麻黄根、白茅根、芦根等。茎类药材的药名上常带有茎、木、枝、梗、藤字，如茅茎、苏木、桑枝、桂枝、紫苏梗、钩藤等。皮类药材的药名上常带有皮字，如桑白皮、苦楝皮、地骨皮、牡丹皮、五加皮、秦皮、合欢皮、白鲜皮等。叶类药材的药名上常带有叶字，如艾叶、大青叶、枇杷叶、番泻叶、侧柏叶、紫苏叶、荷叶等。花类药材的药名上常带有花字，如月季花、玫瑰花、菊花、款冬花、红花、芫花、鸡冠花、样金花等。果实和种子类药材的花名上常带有果、实、子、仁字，如白果、青果、枳实、芡实、诃子、紫苏子、牵牛子、鸦胆子、马钱子、莱菔子、车前子、川楝子、冬瓜子、桃仁、杏仁、郁李仁、瓜蒌仁、酸枣仁、砂仁、火麻仁等。全草类药材的药名上常有带草字，如鱼腥草、垂盆草、仙鹤草、透骨草、金钱草、益母草、车前草、旱莲

草、谷精草、凤尾草等。此外，水牛角名水牛角，虎的骨名虎骨，蛇的胆名蛇胆，皂荚的刺名皂角刺，等等，都是因其药用部位而命名的。

12. 因药物性能功效而得名

如升麻有升阳举陷、发表透疹的功效，故名。狼毒的毒性如狼，不宜内服，故名。番泻叶有泻下通便的功效，故名。通草有通小便、通乳汁的功效，故名。夜明砂可治夜盲，故名。防风可防治风邪引起的疾病，故名。寻骨风主治风湿骨痛，故名。大风子可治大风疾（麻风病），故名。骨碎补有疗骨折、补骨碎的功效，故名。此外，还有泽泻、石决明、决明子、千里光、透骨草、补骨脂、接骨木、威灵仙、千年健、救必应、王不留行、肉苁蓉、当归、续断、阳起石、益母草、益智仁、远志、大活血、断血流、腹水草、砒霜、苕蓉、闹羊花、磁砂、钩吻等，都是因药物性能功效而命名的。

13. 因药物用量而得名

某些毒剧药如用量过大，易引起中毒伤亡。前人为了防止某些毒剧药用量过大而造成伤亡，便以其常用量或极限用量来命名，如三分三、三钱三、八厘麻、七厘丹等。

14. 因生活用途而得名

如灯心草的茎髓可用做油灯的灯心，故名。指甲花可用做染指甲的化妆品，故名。此外，还有芡实、茴香、腐婢、合欢、醉鱼草、佩兰等，都是因其生活用途而得名的。

15. 因人名而得名

如徐长卿原是古代一位医生的姓名，因其常用此药治病活人，后世为了纪念他，就将此药命名为徐长卿。何首乌是一位古人的名字，因为他的祖父、父亲和他本人都是服用此药而延年益寿。他活到130岁时仍头发乌黑（首乌），所以后人就将此药命名为何首乌。此外，还有刘寄奴、杜仲、使君子、韩信草、虞美人、葛仙米、天师栗、禹余粮等，都是因人名而命名的。

16. 因避讳而得名

有的中药因历史上避某人之讳而重新命名。如山药原名薯蕷，因唐代宗名李豫，豫同预，为避其讳预字，而将薯蕷改为薯药；后又因宋英宗名赵曙，为避其讳薯字，遂将薯药改为山药。此外，延胡索原名玄胡索，罗勒又名兰香，都是因避讳而重新命名的。

17. 因外语或少数民族语译音而得名

如曼陀罗一名由古代印度语译音而来。又如诃子，古印度语称之诃黎勒，因其以子（果实）入药，故简称之诃子。此外，还有葶苈、葶苈茄、密陀僧、苘蓼、没药、阿魏、没食子、押不芦、茉莉等，都是因译音而命名的。

18. 因故事传说而得名

如降香，又名降真香，传说求仙时，焚烧此香可使神仙真人感应下凡，故名。此外，还有蛇含、蛇莓、鹿衔草、琥珀、蛇床子、望月砂、夜交藤、淫羊藿、独活、牵牛子等，都是因故事传说而命名的。

三、中草药的性能

中草药治病的基本作用不外是祛除病邪，消除病因，恢复脏腑功能的协调，纠正阴阳偏胜偏衰的病理现象，使之最大程度上恢复到正常状态。中草药之所以能发挥上述作用，是因为每种中草药具有各自若干特性和作用，前人称之为药物的偏性，意思是说以药物的偏性纠正疾病所表现的阴阳偏胜或偏衰。把中草药治病的性能归纳起来，主要有性、味、归经、升降沉浮及有毒与无毒等方面内容。

（一）四气五味

中草药均具有一定的性与味。即所谓四性五味，又称四气五味。药性是根据实际疗效反复验证然后归纳起来的，是从性质上对中草药多种医疗作用的高度概括。药味主要是根据口尝而得的味觉和临床治疗中反映出来的效果而确定的。因此，药味不仅表示中草药的真实滋味，同时也反映中草药的实际性能。

1. 四气

四气是寒、热、温、凉四种药性，古时称四气。其中温热与寒凉属于绝对不同的两类药性。而温与热，寒与凉分别具有共同性，只是在作用的程度上有大小区别。即温性比较大者为热性，凉性比较大者为寒性。因此凉性又叫微寒，热性又称大温。有时根据其作用程度的不同，还标有大热、大寒、微温等词予以区别。药物的寒、热、温、凉，是与所治疾病的寒、热性质相对而言的。能够减轻或消除热证的药，一般为寒性或凉性。如黄芩、板蓝根对于发热口渴、咽痛等热证有清热解毒作用，表明此二药具有寒性。能够减轻或消除寒证的药，一般为温性或热性。如附子、干姜对于腹中冷痛、脉沉无力等寒证有温中散寒的作用，表明此二药具有热性。寒凉药大多数具有清热、泻火、解毒的功能，用于治疗热性病。温热药大多数具有温中、壮阳、散寒的功能，用于治疗寒性病。

此外，还有一些平性药，是指寒、热之性不明显，作用比较平和的药。其中也有微寒、微温的，仍未超出四性的范围，所以平性只是相对的，而不是绝对的。

2. 五味

五味是辛、甘、酸、苦、咸五种味。有些药具有淡味或涩味，实际上不止五种味。但是，五味是最基本的五种滋味，所以仍然称为五味。不同的味有不同的作用；味相同的药，其作用也有相近或共同之处。

综合历代用药经验,各种味具有如下作用:

辛 有发散、行气、活血等作用。多用于解表、理气和活血。如麻黄、薄荷、木香、红花等,都有辛味。

甘 有补益、和中、缓急等作用。多用于补益强壮、缓急止痛、滋阴润燥和调和药性。如党参、熟地、甘草等。

酸 有收敛、固涩的作用。多用于治虚汗、泄泻等证。如山茱萸、五味子、五倍子等。

涩 与酸味作用相似。多用于治疗虚汗、泄泻、尿频、滑精、出血等证。如龙骨、牡蛎、赤石脂等。

苦 有泻火、燥湿、泻下通便、降逆的作用。如大黄,适用于热结便秘;杏仁,适用于肺气上逆而喘咳;梔子,适用于热盛心烦;苍术苦温,适用于寒湿证;黄连苦寒,适用于湿热证。

咸 有软坚散结、泻下通便的作用。多用于治疗瘰癧、痰核、痞块及热结便秘等证。如瓦楞子可软坚散结,芒硝可泻下通便。

淡 有渗湿、利尿的作用。多用于治疗水肿、小便不利等证,如猪苓、茯苓等利尿药。

对于中草药的性和味,必须综合分析。例如两种药都是寒性,但是味不相同,一是苦寒,一是辛寒,两者的作用就有差异。当然,如果两种药都是甘味,但性不相同,一是甘寒,一是甘温,其作用也不一样。因此,不能把性与味孤立起来看。性与味显示了中草药的部分性能,也显示出有些中草药的共性。

(二)升降浮沉

升降浮沉,就是中草药作用于人体的四种趋向。这种性能,可以纠正人体功能的失调,使之恢复正常;或因势利导,有助于祛邪外出。

升和降,浮和沉都是相对的。升是上升,降是下降,浮是发散,沉是泄利。一般具有升阳发表、祛风散寒、涌吐、开窍等功效的药物,都能上行向外,药性都是升浮的。而具有泻下、清热、利尿渗湿、重镇安神、潜阳息风、消导积滞、降逆、收敛及止咳平喘等功效的药物,则能上行向内,药性都是沉降的。

中草药升降浮沉与其性味有一定的关系。能升浮的中草药大多具有辛、甘味和温热性;能沉降的中草药大多具有酸、苦、咸、涩味和寒、凉性。同时,中草药升降浮沉还常受到加工炮制的影响。在复方中,一种药的作用趋向还可能受到其他药的制约。如中草药炮制,经酒炒则性升,姜汁炒则能散,醋炒则收敛,盐水炒则下行。在复方配伍时,性质升浮的药,配入沉降性的药时,则其升浮之性可受到一定的制约;反之,性属沉降的药,配入升浮性的药时,则其沉降之性也可受到一定的制约。可见中草药的升降浮

沉之性,在一定条件下,是可以进行人为控制转化的。

(三)归经

归经,就是指中草药对人体的某个或几个脏腑经络的病变具有主要治疗作用。如寒性药物,虽同样具有清热作用,但有的偏清肺胃热,如石膏;有的偏清肝热,如夏枯草。又如补益药,也有补肺、补脾、补肾等不同。因此,将各种中草药对人体各部分的治疗作用进一步归纳,使之系统化,就形成了中草药归经的理论。

归经是以脏腑、经络理论为基础,以所治具体病证为依据的。经络能沟通人体内外表里,在病变时,体表的疾病,可以影响到内脏;内脏的病变也可以反映到体表。因此人体各部分发生病变时所出现的证候,可以通过经络而获得系统的认识。如肺经病变,可见喘、咳等证;肝经病变,可见胁痛、抽搐等证;心经病变,可见神昏、心悸等证。根据药物的功效,与病机和脏腑、经络密切结合起来,就可以说明某药对某些脏腑、经络的病变起着主要医疗作用。如桔梗、杏仁能治胸闷、喘咳,归肺经;青皮、郁金能治胁痛,归肝经;朱砂能安神,归心经等。这说明归经的理论,是具体指出了药效的所在,是从临床疗效观察中总结出来的。

某一脏腑、经络发生病变,有寒、热、虚、实之别。同归一经的药物,其作用也有温、清、补、泻之不同,如肺病咳嗽,虽然黄芩、干姜、百合、葶苈子都归肺经,可是在应用时,却不一样。黄芩主要能清肺热,干姜则能温肺寒,百合补肺虚,葶苈子则泻肺实。可见,只有将中草药的归经与四气五味、升降浮沉等多种性能结合起来,以此指导中草药的应用,才会收到预期的效果。

此外,由于脏腑经络病变可以互相影响,因此在临床用药时,也不能单纯地使用某一经的药物。如肺病而见脾虚者,就要兼用补脾药,使肺有所养而逐渐痊愈。又如肝阳上亢而肾阴不足者,就要加用补肾阴的药,使肝有所涵而虚阳自潜。总之,既要了解药物的归经,又要掌握脏腑经络之间的相互关系,才能更好地指导临床用药。

(四)有毒与无毒

“毒药”在古代医药文献中常是药物的总称。药物各有偏性,这种偏性就是“毒”。《神农本草经》把中草药分为上中下三品,就是根据药性有毒无毒来分类的。大体上把攻病治病的药称为有毒,可以久服补虚的药看作无毒。有毒的药物后多有强烈的医疗作用。故张子和云:“凡药皆有有毒也,非止大毒、小毒谓之毒。”张景岳云:“药以治病,因毒为能,所谓

毒药，是以气味之有偏也。……是凡可避邪安正者，均可称为毒药，故曰毒药攻邪也。”这就是广义“毒药”的进一步解释。但为了确保用药安全，后世许多本草书籍在药物的性味之下所标注的“大毒”、“小毒”，大多是指一些具有一定毒性或副作用的药物，用之不当就可能导致中毒。这里“毒”的含义已不是古时那样广义的概念，如毒性较大的砒霜、水银、斑蝥、藤黄、生川乌、生草乌、生半夏、马钱子、巴豆等。认识每种药有无毒性及毒性的强弱，在医疗上有时可采用“以毒攻毒”的治法，如应用适宜的毒药来解疮毒、杀虫等。同时，认识各种药的毒性大小、有无，可以帮助我们理解其作用的强烈或和缓，从而根据病体虚实、疾病深浅来适当地选用药物和确定用量。并可以通过必要的炮制、配伍、制剂等环节来减轻或消除其毒性和副作用，以保证用药安全。

四、中草药的应用

在应用中草药时，必须要了解中草药的配伍关系、配伍原则、配伍禁忌、妊娠用药禁忌、服药时的饮食禁忌、服用剂量和服用方法等内容。掌握这些知识和方法，按照病情、药性和治疗要求予以正确应用，对于充分发挥药效和确保用药安全具有重要意义。

（一）配伍关系

中草药的配伍，就是将两种或两种以上药物组合在一起应用。前人把各种药物的配伍关系总结为相须、相使、相畏、相杀、相恶、相反等六种，加上单行（单味药的应用），合称“七情”，现分述如下：

1. 单行

单行即用单味药治病，不需要其它药物就能发挥疗效。如清金散，单用一味黄芩治轻度的肺热咳血。又如单用鹤草芽驱除绦虫。还有许多的行之有效的“单方”也都属于此类。它符合简便廉验的要求，便于使用和推广。

2. 相须

相须即两种以上性能功效相类似的药物配合应用，可以增强其疗效。如石膏与知母配合，能增强清热泻火的疗效；大黄与芒硝配合，能增强攻下泻热的疗效。

3. 相使

相使即两种性能功效有某种共性的药物配合应用，而以一种为主药，另一种为辅药，能提高主药的疗效。如补气利水的黄芪与利水健脾的茯苓配合时，茯苓能提高黄芪补气利水的疗效。又如清热泻火的黄芩与攻下泻热的大黄配合时，大黄能提高黄芩清热泻火的疗效。

4. 相畏

相畏即一种药物的毒性反应或副作用，能被另一种药物减轻或消除。如生半夏和生南星的毒性能被生姜减轻或消除，所以说生半夏和生南星畏生姜。

5. 相杀

相杀即一种药物能减轻或消除另一种药物的毒性和副作用。如生姜能减轻或消除生半夏和生南星的毒性或副作用，所以说生姜杀生半夏和生南星的毒。由此可知，相畏、相杀实际上是同一配伍关系的两种提法。

6. 相恶

相恶即两种药物合用，一种药物的原有功效能被另一种药物降低或消除。如人参参与莱菔子合用，莱菔子能降低或消除人参的补气作用，即人参恶莱菔子。

7. 相反

相反即两种药物合用，能产生毒性反应或副作用。如“十八反”、“十九畏”中的某些药（见“配伍禁忌”）。

（二）配伍原则

中草药通过配伍而成为方剂，其目的主要在于增强或综合药物的作用，以提高原有疗效，所谓“药有个性之特长，方有合群之妙用”即为此意。其次，随证合药，全面兼顾，以扩大治疗范围，适应病情的需要。同时，还可以降低或消除药物的毒性和副作用。所以将药物配伍成方剂，可以取长补短，相得益彰，发挥更好的疗效。方剂的配伍组成一般包括以下四个部分。

1. 主药

它是针对病因或主证而起主要治疗作用的药物，通常选取1—2味药，用量也较重。

2. 辅药

它是协助主药以加强治疗作用的药物。通常用量较轻。

3. 佐药

它有三个意义。一是治疗兼证或次要证候的药物，一是用于因主药有毒或药性峻烈须加以制约者，一是反佐作用，用于因病势拒药须加以从治者，如在温热剂中加入少量寒凉药，或在寒凉剂中，加入少量温热药，以消除寒热相拒，药不能进的现象。通常用量较少。

4. 使药

即引经药，或调和药性的药物。通常用量最少。

由上可见，决定方剂中药物的主、辅、佐、使，主要是根据药物在方剂中所起作用的主次、用量的多少和药力的大小来区分的。每个方剂，主药是必不可少的。在简单的方剂中，辅、佐、使药则不一定俱存，有些方剂的主药和辅药本身就兼有佐药和使药的作用。至于在一方剂中主辅佐使药味的多少，并不能呆板的规定，应根据实际病情需要而定。一般是主药少